「地方議会評価モデル」の取組み

～市民に身近な議会を目指して～

2022（令和4）年３月２３日（水）

飯田市議会

議会が（は）遠い存在（身近でない）？！

「議会が何をしているかわからない」・「住民の声が届かない」など、
本来は議会は住民のものであるはずなのに、**遠い存在（身近でない）**
と受け止められてきた。

今以上に**市民に身近な福祉向上に資する議会**としての方向を探らなければならない。
市民のみなさんから「議会は自分たちのもの」と思ってもらえる飯田市議会を目指す必要がある。

☞ 社会の環境変化に応じて制度・運用を再確認するとともに、あらためて**過去を振り返り、これからの10年を見据え前に進む**機会としたい。

(1)「地方議会評価モデル」（評価モデル）　導入に向けて

自治基本条例（議会の条項）に向き合って

自治基本条例（2004年）

（第6章）市議会の役割

議会改革・運営ビジョンの策定
（2012年）

議会改革推進会議の設置と進行管理

10年

【２０２２年】

地域経営の視点で“自己診断”

「地方議会評価モデル」の導入

（新）議会改革・運営ビジョンの策定

議会プロフィール・ビジョンの公表

(2)「地方議会評価モデル」とは

地方議会評価モデル（評価モデル）

◆日本生産性本部が事務局となって支援する「地方議会改革PJ研究会」が開発するプログラム

◆組織マネジメント（運営）の視点から、多角的に議会運営の状態を診断（善き生産物は善き経営によって産出される、その経営の品質を評価する）

◆振り返りと学びから議会運営の改善を促す

◆5つの取組（①理想的な姿の構想　②現状分析　③改革の戦略づくり　④具体化する方策の検討　⑤戦略の実践）

（3）「地方議会評価モデル」 ＝ 地方議会改革プロジェクト研究会（日本生産性本部）による支援

地方議会における政策サイクルと評価モデル研究会

➢「議会からの政策サイクル」を軸に、住民福祉の向上という価値を創造する議会運営を研究

「地方議会における政策サイクルと評価モデル研究会」概要　（共催：早稲田大学マニフェスト研究所）

顧　問　北川　正恭　早稲田大学名誉教授、早稲田大学マニフェスト研究所顧問
座　長　江藤　俊昭　大正大学教授
メンバー　13議会・計39名
［会津若松市、あきるの市、飯田市、犬山市、大津市、可児市、甲府市、那覇市、西脇市、船橋市、武蔵野市、山梨県、陸前高田市の各議会議員・議会事務局職員有志］

北川正恭 顧問

江藤俊昭 座長

2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
先進事例研究	構成要素分析	報告書作成	評価モデル構築	実践研究

- 2019（令和元）年 **「地方議会評価モデル」（地方議会の成熟度基準）** を構築。
- 2020（令和２）年　同モデルを用いた議会運営の評価を試行し、実践手法の確立に取り組む。
- 2021年から2022年　研究会の「実装の場」として実践している議会を支援、課題等を手引書に反映

実践的な方法論の提供により、住民福祉の向上につながる議会改革を支援

(4)

日本生産性本部

- 1955（昭和30）年に「生産性向上対策について」の閣議決定に基づき、政府と連携する民間団体として設立され、米国に経営組織、生産管理、マーケティングなどの経営手法を学ぶための視察団を派遣するなどして戦後の日本経済の復興と高度経済成長を支えました。

  ＜初代会長：牛尾治朗　現会長：茂木 友三郎（キッコーマン 取締役名誉会長 ）＞

- また、経済界・労働界・学識者の三者から構成されるユニークな組織であり、産業別・企業別の労使の委員会を設置するなど、現在の労使関係の基盤をつくりました。
- 現在ではその活動は人材育成研修や経営コンサルティングなど産業の生産性向上を支えるさまざまな分野に広がり、生産性に関する調査研究・提言活動も行っています。
- また政治・行政を含む社会経済システムの改革にも取り組んでおり、「政治改革フォーラム」「政治改革推進協議会（民間政治臨調）」の流れをくむ活動は、平成の30年間にわたる政治・行政改革の底流をなしています。
- グローバル化の進展や急速なデジタル技術の発展、人口減少にともなう労働力不足など国内外の環境が劇的に変化するなか、日本生産性本部は、持続可能な経済社会を次世代に引き継ぐための「生産性改革」に取り組んでいます。

（5）飯田市議会の10年の振り返り

これまでの10年間の取組はどうであったか

常設型の議会改革推進会議が
議会改革・運営ビジョン」
を進行管理

1.議会改革・運営ビジョンに基づく
現在の議会の状況を診断・チェック

・検討すべき29項目
・全項目を「完了」「実施中」「検討中」に振り分け
・検討項目については実現方策を協議・検討

2．議会運営の見直しと実践

・決定した実現方策の明確化
・議会運営委員会での決定
・全員協議会での全体化
・実践、次期体制へ申し送り

・評価モデルの観点からは、条例の条文を評価項目として評価するだけでは不十分

・議会改革全体が評価対象になっておらず、住民の福祉の向上につながっているという質的な議論がなされていない

自治基本条例に基づいて活動できているか？

議会の役割を果たしているか？

現状をどう捉えているか？

（6）地方議会評価モデルの導入後のイメージ

評価モデルによる議会のバージョンアップ・サイクルを実現

1.議会プロフィールで現在の議会の状況の見える化

・基本データ
・議会に期待される役割
・実現すべき理想的な姿
・現在の姿
・社会環境の変化
・取り組むべき課題
・通任期の活動目標

目指す理想的な姿は？

自治基本条例に基づいた議会の役割は果たしているか？

現状をどう捉えているか？

2. 議会運営の見直しと実践

組織経営的な５つの視点【15項目】
①戦略プラン
②政策サイクル
③条件整備
④信頼と責任
⑤ふり返りと学び

3. モデルによる診断 成熟度による議会の評価

【成熟度の評価】
・下記の視点で◎〇▲の３段階評価
①認識や前提とする考え方が共有できているか【認識】
②仕組みや制度は継続性を持った取り組みとなっているか【方法】
③結果が生まれているか【結果】

評価に基づく課題の明確化

議会改革・運営ビジョンの見直し・アップデート

4. 議会改革の進展と実践

通任期の活動目標を議会で共有して行動

課題克服による住民福祉の向上へのつながり

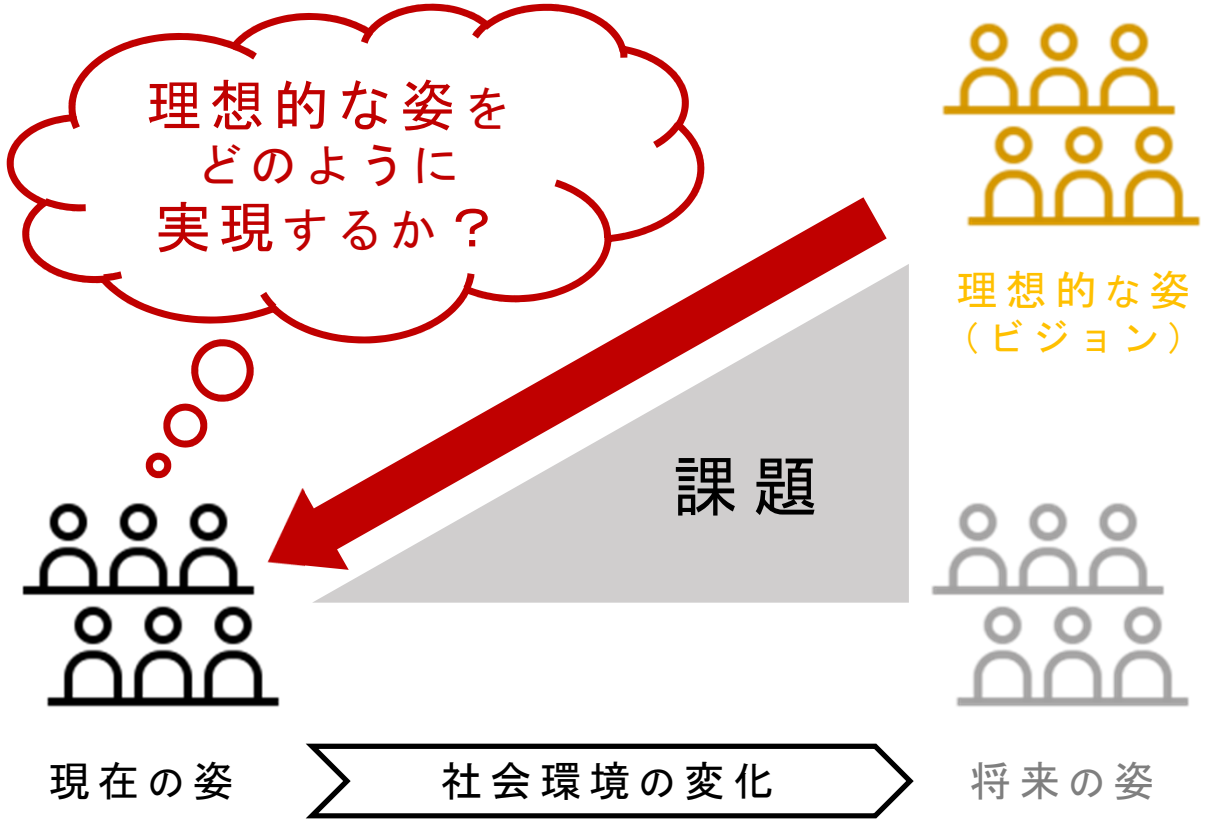
議会プロフィールの更新

再診断

(7)

飯田市議会が「地方議会評価モデル」を通じて目指すこと

- 将来の「理想的な姿」の実現に向けて、これから「取組むべきこと」を考える。



(8)「地方議会評価モデル」

「評価モデル」取組み行程（予定）

◆3月29日（火）「キックオフ講演会」

講師：江藤俊昭教授（大正大学教授　公共政策、地方自治、地方政治）

◆4月　全議員によるオリエンテーション

◆5月　3グループによるグループ討議開始

◆6月　グループリーダー・サブリーダー会議（随時）

◆7月　「議会プロフィール」（飯田市議会の分析結果）作成

◆8月　「地方議会評価モデル」を活用した自己診断着手

◆12月　「議会改革・運営ビジョン」の見直しとロードマップの明確化

◆R5・3月　「評価モデル」の取組結果と「新　議会改革・運営ビジョン」の公表

我々は、今どこにいるのか。

ここからどこに行きたいのか。

どうやってそこに行きたいのか。

我々は、地図を持っているのか。

劇中の架空の政治家の言葉より／イギリス